

例年8月に行ってきた納涼祭の、費用の高騰と参加者の減少を考慮し、誰もが気軽に参加でき、コロナ収束を祈念する時期にも適合し、屋外で密集を回避できる行事として企画された花火大会が、8月21日実施された。

打上げ場所は、一条中・青葉学園の校庭。観覧場所は、西原小学校庭、またはそれぞれの自宅とした。

体協、子連、PTAは、音響、救護、会場設定など、それぞれの役割で協力。道路では、消防第2分団、花房交番が警備にあたる。また、参加者の手指の消毒や検温など、感染対策も抜かりない。

夕刻7時を過ぎると、大勢の親子連れが徒歩や自転車で西原小学校庭に集まってきた。校庭は2メートル間隔でマスク状に白線が引かれ、密にならない工夫もされていた。

7時30分打上げ開始。100発の花火はさまざまに趣向をこらして次々に打ち上がる。大輪の菊の花火は大音響と共に真上の空いっぱいになり、顔面に落ちてきそうなほどの迫力で、思わず感嘆の声が上がった。

参加者はコロナ収束を願いながら、華やかな花火を厳かに愛でた。花火の瞬間の光の中で、子供たちの笑顔がキラキラと輝いていた。

7時30分打上げ開始。100発の花火はさまざまに趣向をこらして次々に打ち上がる。大輪の菊の花火は大音響と共に真上の空いっぱいになり、顔面に落ちてきそうなほどの迫力で、思わず感嘆の声が上がった。

* 主な内容 *

表紙 西原地区コロナ収束祈念花火大会

3P 〈特集〉 西原地区で活動する
こんなボランティア

★敬老の日に寄せて

令和3年度西原地区の敬老者について(令和3年7月現在)

- 対象者(75歳以上の方) 1139名
- ・新敬老者(75歳を迎えた方) 86名
- ・100歳以上の方 7名(最高齢102歳)
- ・今年100歳を迎えた方 4名
- 青木トシさん(西原川向) 日下サイさん(陽南東部)
- 鈴木アキさん(陽南東部) 川邊晴子さん(花房本町)

100歳の中でも、西原川向の青木トシさんは、社会福祉協議会会長、福田浩二さんが賞状と記念品を贈呈に訪問するにこやかに出迎えてくれた。

足は弱ったものの散歩は毎日欠かさない。コロナ禍でも毎日のように顔を見せに訪ねてきてくれるお隣さんたちに会えるのが何よりの楽しみだ。趣味となった折り紙も、脳が衰えないようにと隣人に勧められて以来、折り続けて4年になる。朝食後、8時になると折り始め、西原文化祭に出品することを励みに難易度の高い作品作りに挑戦する常連の出品者だ。一寸分のズレもない折り目と複雑で繊細な作品の美しさは、折り重ねてきた百年の日々の思いがその指先に込められているからなのだろう。



◎新敬老者を代表して

花園町 檜山和子

コロナウイルス感染の影響により、今年も式典は中止になりましたが、同級生が86名も同じ地区に住んでいる事、大変心強く思います。集まる機会があると嬉しいですね。私は西原地区に53年前からお世話になっていきます。地区の皆さんに育てて頂きました。これからも健康に気を付けて、地域共生社会のお手伝いが出来ればと考えています。これからも宜しくお願いします。

●にしはら支え隊 活動報告

草むしりボランティアを試行している支え隊。申し込みのあった一人暮らし高齢者3軒の草むしりを次々と行った。

8月1日は花房2丁目のTさん宅。朝7時、応募者は6名であったが、何と小学生2人を含む12人が集まってくれた。広い庭だったが大勢での作業、1時間であつという間にゴミ袋10個が積み上がった。

参加者は「仲間といっしょに取り組む魅力を感じた」「一人でできないことも、皆と一緒にあつという間にできる素敵なマジック!」などの声。後日Tさんからは感謝のメールが届いた。時と場合によって支えたり支えられたり、誰もが居場所や出番があつて、安心して暮らしていける西原地区を作りたいと、にしはら支え隊は活動を続けている。



〈特集〉西原地区で活動するこんなボランティア

◆西原盛り上げ隊

花房本町の池田猛さんは、11月になると毎週月曜の朝8時半から2時間、落葉清掃に励む。場所は市中央図書館西のイチョウ並木。

周辺は色づいたイチョウの葉が毎年道路を黄金に染める。ギンナンの実は人や車に踏まれて辺りを汚す。ひと息つくのは12月半ば。1シーズンで450袋もの落葉を回収しているとのこと。



◆いつもきれいに! 「ミセン」の清掃奉仕

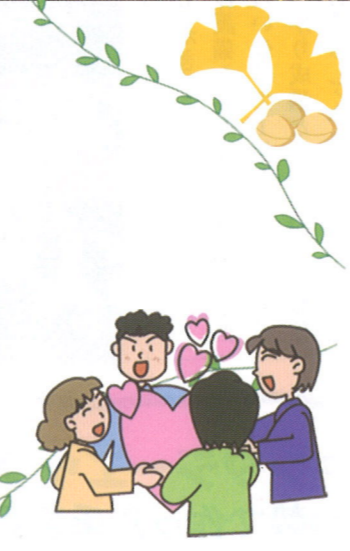
花房本町自治会の会長富川幸二さんは、前任ボランティアの跡を継いで、5年前からコミセンの清掃をしている。館内の清掃は朝の利用時間前に行い、休館日にも外周りの落葉掃きや草むしりなども行っている。お陰で利用者はいつも気持ちよく利用できる。

「毎日じゃ大変でしょう?」と聞くと「体を動かして、きれいになっていくのを見るのが根っから好きなんですよ」と照れながら答えてくれた。



◆ペットが幸せに暮らせるように

(動物愛護推進員)



西原1丁目の望月峰子さんは、非営利動物保護団体「ととのん」の会員として、保護犬や猫の譲渡ボランティア活動をしている。現在、小型犬2匹(1匹は保護犬)と、野良だった猫1匹を飼育、近くもう1匹保護猫を預かる。「可愛いだけで飼って、飼えなくなると捨てられたり、悪環境に放置されたりして保護されるペットたち。飼うからには最後までめんどうをみて」とペットに気遣いながら話してくれた。興味のある方、問い合わせはコミセンまで。

後期の行事について

相変わらぬのコロナウイルスの蔓延によって、今年の文化祭や防災訓練も中止となりました。今後についても逐次、回覧でお知らせします。



あいあいサイト

★ほたるまつり



6月26日に第11回ほたるまつりが西原小学校中庭で行われた。コロナ対策を踏まえてパフォーマンスは行われず、BGMが流れる中での鑑賞となった。
 蛍の幼虫は、3月に西原小の3年生によってビオトープに放たれた。
 コロナ禍で多くの地域行事が中止となっているが、久しぶりの行事開催に暗闇に放たれる蛍の光を見ようと多くの住民が集まり心を和ませた。

●西原地区合同研修会行われる

昨年の研修会はコロナで中止されたが、今年は8月5日万全の対策をしての実施となった。

参加者は15名。道の駅湯西川から水陸両用バスでクルーズ。ダム施設を見学し、川治ダムで神秘的な湖面の美しさを堪能してきた。



《お詫び》 テイリハにしはらについて

6月25日発行のあいあい特別号掲載の「テイリハにしはら」の紹介記事に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

●テイリハにしはらを利用できる人について

「要介護1以上の方」(誤) → 「要支援1以上の方」(正)

*まずは見学や体験、お待ちしております。

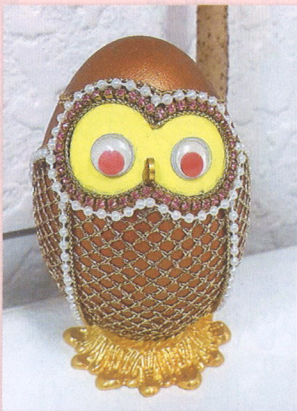
問い合わせは (638) 0640 まで

《あながき》

保護猫から産まれた仔猫を2匹もらい受けて1年が過ぎた。もうすっかり成猫となったがどんな仕草も愛らしく、時にその気ままさは羨ましくもある。念願だった猫との生活。共に穏やかに歳を重ねたいと思う今日この頃だ。

★ファンタジーエッグ (卵の殻で作った手芸品です)

吉村蓉子 (京町)



●趣味ゆうゆう